

# プラタナスの木

椎名誠作  
中島梨絵 絵

1 マーちゃんといつも遊んでいる仲間は、せいの高い花島君とハイソックスが好きなクニスケ。それに、アラマちゃんだ。本当は荒井さんというのだけれど、口ぐせが「あらま」だから、いつのまにか、そうよばれるようになった。四年生になって、クラスは別々になったけれど、それまではずっと同じクラスで、家も近かったからいまだに仲よしだ。

2 マーちゃんたちが集まる場所は川ぞいの公園で、バスケットコートぐらいの広さしかない。公園は、何も植えられていない花だんてかこまれていて、古

い大きなプラタナスの木が一本だけ生えているので、プラタナス公園とよばれている。中学生や幼児連れの母親などはめったに來ないから、マーちゃんたちは、自分たちの遊びができた。水飲み場があるのも助かるけれど、何よりうれしいのは、この公園では、時間によってボール遊びができることだった。他の公園では、ボール遊びは禁止なのだ。

3 最近熱中しているのは、サッカー。リーダーはクニスケだ。クニスケは、サッカーをするときには、ハイソックスの中にすね当てを入れる。本格的なのだ。二人がゴールキーパーと守りになり、二人がドリブルやパスをしてせめる。花だんと花だんの間に二メートルぐらいの空間があつて、そこがゴールだ。

4 つゆ明けのころからだろうか、プラタナスの木の下にある、古い小さなベンチにおじいさんがやって来て、にこにこしながら、マーちゃんたちのサッカーをながめているようになった。

5 試合が白熱してくると、ときどきパスやドリブルのコースが外れて、プラタナ

スの木の下にボールが転がっていくことがある。そういうとき、おじいさんは、こしをかめてボールを大切そうにつかみ、そのままじっとしている。

「こうしていいいと、どっちかが有利になってしまうかもしれないからね。」  
おじいさんは、そう言つて笑う。

6 そのうちに、マーちゃんたちとおじいさんはだんだん親しくなり、サッカーにつかれると、みんなプラタナスの木の下に集まつて、おじいさんと話をするようになった。おじいさんが「みんな水をもっとたくさん飲んで、少し日かげに入つて休まないで熱中症になるよ。」と言つたのがきつかけだった。太陽の光が夏に向かつてずんずん強くなり、大きな葉のプラタナスの木の下が、とてもよい日かげになるのだ。

7 おじいさんの話はいつもおもしろかった。

8 ある日、おじいさんは不思議なことを言つた。

「このプラタナスの木が、さか立ちしているところを考えたことがあるかい。」  
「あらま。木がさか立ち。」

9 アラマちゃんが、いつものようにおどろいた。

「そう。この木がさか立ちするだろう。すると、木のみきや枝葉と同じぐらいの大きさの根が出てくるんだよ。木というのは、上に生えている枝や葉をささえるために、土の中でそれと同じぐらい大きな根が広がつて、水分や養分を送っているんだ。」  
「どの木もみんなそうなんですか。」

今度は、花島君がマーちゃんの頭ごしにきいた。

「たいていの木は、大きな根が地面の下にぎっしり広がっているのさ。だから、このプラタナスの木が公園全体を守っている、といつてもいいくらいだ。もし、地上のみきや枝葉がなくなつたら、根は水分や養分を送れなくてこまつてしまうんだ。」

10 マーちゃんと花島君とクニスケは「ふうん。」と同じ

禁止

白熱

有利  
笑う



花島君が、かたを落として言った。アラマちゃんは、いつもの口ぐせを言わずにだまっている。

21 立ち入り禁止がとけて、また、マーちゃんたちは、公園に遊びに行くようになった。木が切られてから、おじいさんは公園にすがたを見せなくなっていた。サツカーも前ほど白熱しなくなり、マーちゃんたちは、おじいさんがいつもすわっていた、日かげのなくなったベンチにだまってすわりこんだ。だまっているけれど、みんなが何を考えているかは分かる。

22 そんなある日、ベンチにすわっていたマーちゃんは、思いついたように、プラタナスの切りかぶの上に立ってみた。今でも地下に広がっている根のことを想像していたら、そうした気持ちになったのだ。

23 花島君が不思議そうに見ていたので、

「おいてよ。なんだか、根にささえられているみたいだよ。」

と言うと、花島君だけではなく、クニスケもアラマちゃんも切りかぶに乗ってきた。

せいの高い花島君を真ん中にして、両手を広げてプラタナスの切りかぶに乗っていると、みんなが木のみきや枝になったみたいだ。

24 プラタナスは切りかぶだけになったけれど、ぼくたちのプラタナス公園は変わらない。春になれば、プラタナスも芽を出すだろう。そうすれば、きっとまた、おじいさんにも会える。それまでは、ぼくたちがみきや枝や葉っぱの代わりだ。そう思いながら、マーちゃんは大きく息をすって、青い空を見上げた。

。芽め

推名誠

一九四四年、東京都生まれ。作家、映画家として活躍。『大きな約束』などの作品がある。

